

このたびはSSC(ササキスポーツクラブ)オリジナルパーツをお買い上げいただき誠にありがとうございます。  
取付作業を行う前にこの取扱説明書を熟読してくださいますようお願い申し上げます。  
開梱時に部品の欠品・不具合等がございましたら下記までご連絡ください。

(有)ササキスポーツクラブ TEL059-386-5600

三重県鈴鹿市稲生町7343-1

## ■ 注意 ■ (下記の内容を厳守されない場合には重大な事故の原因となることがあります)

- ・本製品の取付作業は製品および車両をよく理解した人が実施してください
- ・取付作業に自信がない場合、取付作業は専門のワークショップへ依頼してください
- ・作業ミスにより生じたいかなる物的・人的損害につきましても弊社では責任を負いかねます
- ・取付後は定期的に取付状態の点検・調整を実施してください
- ・一度車両へ取り付けた製品の外観異常によるクレームは原則として受け付けません
- ・製品の加工・改造は絶対に行わないで下さい

### 作業実施前に

- ・車両のエンジンを停止し、メンテナンススタンド等により車体を確実に固定してください
- ・必要に応じて作業中の車体への傷付きを防止するために適切な処置を実施してください
- ・この製品はブレーキホースの交換を必要とします。ブレーキホースは重要保安部品につき作業はBMW正規ディーラーで実施してください。BMW正規ディーラー以外において装着作業を実施された場合、その後発生したいかなる人的・物的損害につきましても弊社では責任を負いかねます。



### 梱包内容

ハンドルセットバック × 2ケ

ブレーキホース × 1本

ボタンボルトM8x25 × 2本

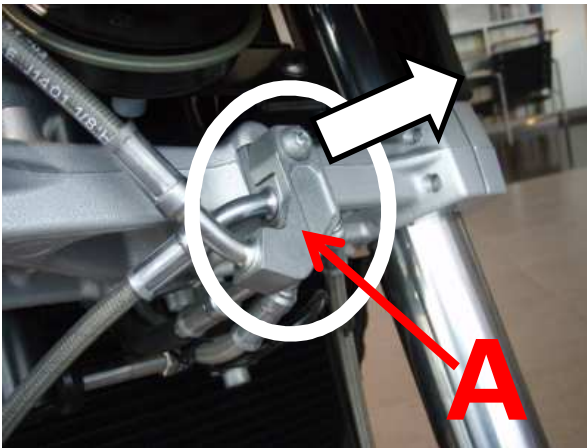
ボタンボルトM8x15 × 2本

ボタンボルトM6x10 × 1本

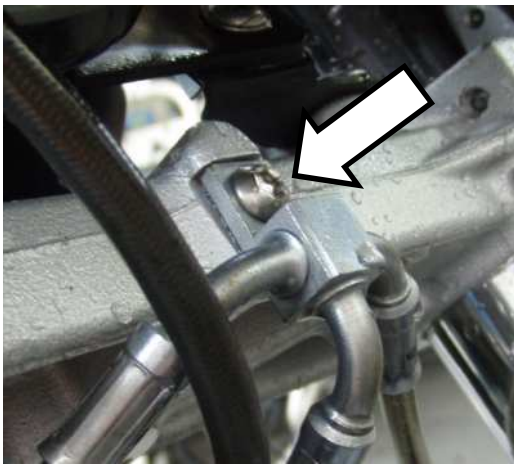
アルミパッキン × 2枚

銅パッキン × 1枚

カラー × 1ケ



- (1)  
左で図示されたボルトを緩め、フロントブレーキラインを固定している部品Aをフォークブリッジから取り外します



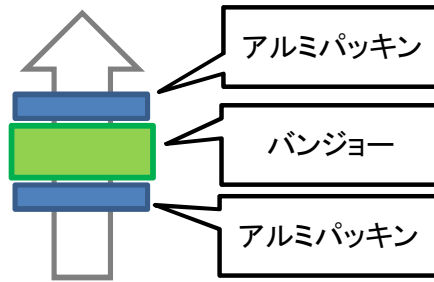
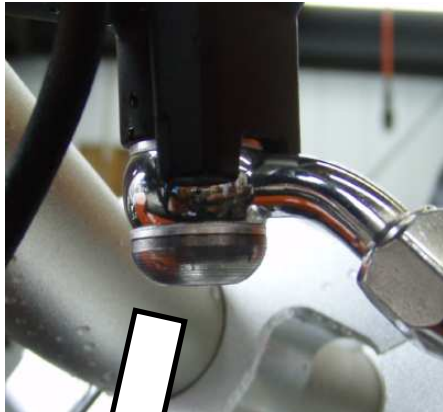
- (2)  
商品に付属するM6x10ボルトを用いて左図のように残った部分をフォークブリッジに固定し直します。



## ■警告■

以下の作業は重要保安部品の交換となります。必ずBMW正規ディーラーで所定の手順にて作業を実施して下さい。

- (3)  
所定のブレーキホースの交換手順に準じて、ブレーキレバーフィッティングへのブレーキホース(左図A)を取り除きます。ブレーキフルードが塗装面に付着するのを防ぐために適切な処理を予め行ってください。  
ブレーキキャリアパーへのブレーキホース(左図B)はそのまま使用しますので取り外さないでください。



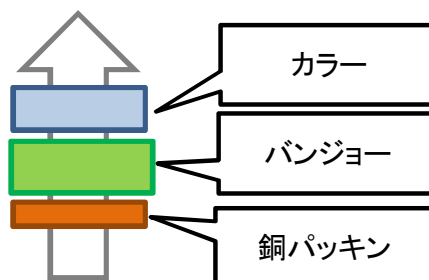
(4)

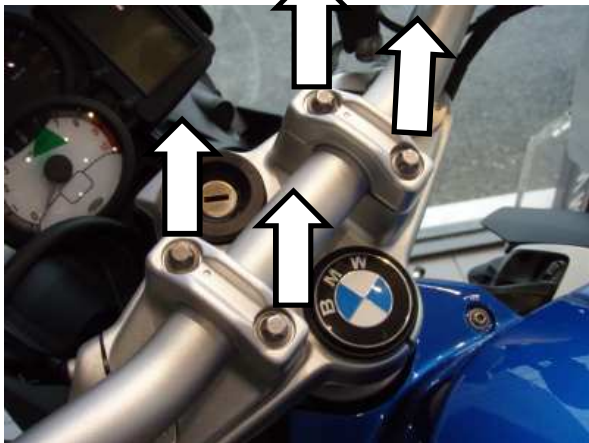
商品に付属するブレーキホースを取り付けます。ハンドルを動かしてもブレーキホースが挟まれたり引っ張られたりしないよう左図を参照に、ブレーキホースの取り回しを慎重に確認してください。

バンジョーボルト部へのパッキンの挿入順序は上下にある概略図を参照してください。

(5)

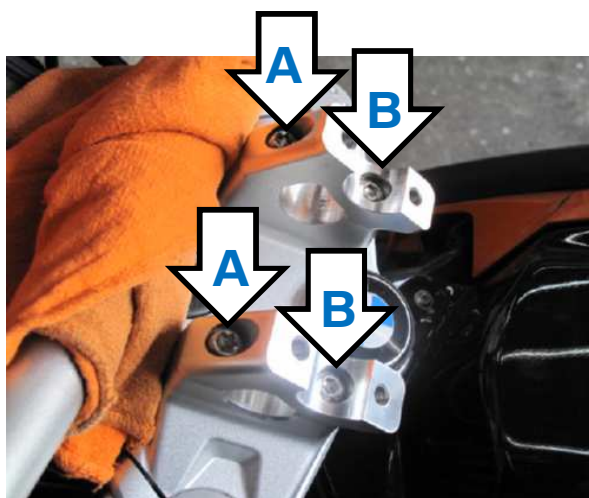
ブレーキホースを取り付けた後に、ブレーキフルードの補充とエア抜きを実施してください。それらの作業手順については所定のブレーキフルード交換手順に準じます。





(6)  
ハンドルバーのクランプを取り外します。クランプとボルトは再利用しますので注意してください。

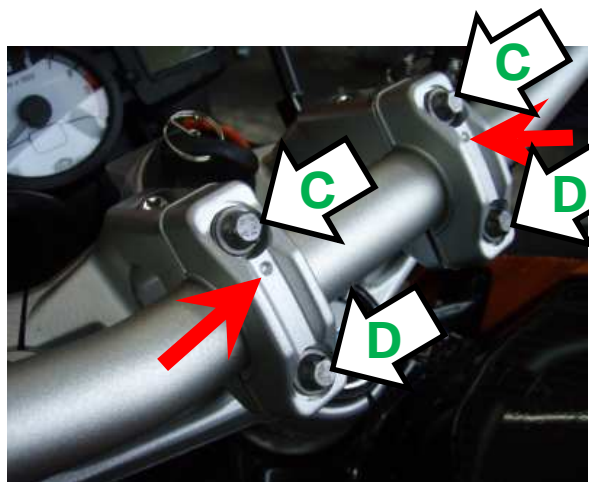
その後、ハンドルバーをトップブリッジから取り外します。



(7)  
ハンドルセットバックキットをトップブリッジに備えつけます。そして商品付属のボルトで左図のように固定します。

(A)はボタンボルトM8x25を指定トルクで締め付けます  
(B)はボタンボルトM8x10を指定トルクで締め付けます

締め付けトルク  
..... 28Nm



(8)  
ハンドルバーをハンドルセットバックキットの上に設置した後で、手順(6)で取り外したクランプとボルトで再固定します。クランプは左に図示された凹みマークの方向に注意してください。

最初に(C)のボルトを指定トルクで締め付けます。  
次に(D)のボルトを指定トルクで締め付けます。

締め付けトルク  
..... 28Nm

(9)  
全ての部品の取り付け状態を点検します。そしてハンドルを左右に切ってケーブルやホースが引っ張られたり挟まれたりしていないこと、ブレーキシステムが正常に作動することを確認します。

製品装着後、短い距離で慎重に試運転を行い、実際の操縦に支障がないことを確認します。

その後も定期的に全ての部品の状態を点検・調整して下さい。